



日本大学歯学部公開講座



口腔保健と全身の健康シリーズ(45)

本当はどうなの？『インプラント治療』

—インプラントに関してよくあるご質問,
本音でお答えします—

歯科補綴学第Ⅲ講座 准教授 萩原芳幸

日時 平成30年11月10日(土) 13:30~

場所 歯学部4号館3階第3講堂

主催 日本大学歯学部

東京都千代田区神田駿河台1-8-13

<http://www.dent.nihon-u.ac.jp>

【講演内容】

『インプラント』をキーワードにしてインターネット検索をしてみると、莫大な量の情報量に驚かされます。そこには大抵『失ってしまった自分の歯の代わりに人工の歯根を顎の骨に埋め込み、その上に人工の歯を作製して噛み合わせを回復する治療法です…』云々の説明があるはずですが、それ自体は間違いではありませんが、分かったようで分からないのがインプラント治療ではないでしょうか？

長年インプラントと治療にたずさわってきた経験から、患者さんの素朴な疑問は以下の6項目に集約される傾向が分かってきました。

1. インプラントって何？ どんな治療なの？ 何をするの？
2. インプラントって安全？ 体に害はないの？ 手術が必要なのでしょ？
3. インプラントは誰でも受けられるの？ 私は大丈夫かしら？ 年齢制限は？
4. インプラントをするとどういう効果があるの？ 治療期間は？
5. インプラントって長持ちするの？ 一生もつもの？ 壊れたらどうするの？
6. インプラント治療にかかる費用は？ お高いのでしょ？
7. 高齢になって介護が必要になったらどうなるの？

しかし、皆さんが本当に望んでいることは骨の中に人工物（人工歯根＝インプラント体）を埋め込むことではなく、失った歯や機能を回復して『食事や会話を楽しみたい』、『自信を取り戻したい』、そして最終的には『生活の質を高めたい』のではないのでしょうか？

インプラントが安全で効果的な治療として認知される以前は、歯を失った場合の治療法としては取り外しの入れ歯（部分床義歯や総義歯）やブリッジが選択されてきました。これらの治療方法は現在でも一般的な歯科治療の根幹をなしており、満足のいく治療効果を得るためには高度な技術が要求され（特に取り外しの義歯で顕著です）、むしろインプラント治療よりも難しい場合もあるのです。

多くの患者さんは歯を失った部位の骨にインプラントを埋め込んで、その上に人工の歯をかぶせれば済むと単純に考えがちです。しかし、長年の経験からインプラント治療だけで解決する問題は少ないことも強調しておきたいと思います。したがって『歯を失った＝歯科インプラント治療』は過ちで、従来の治療方法も含めて可能性のある治療方法を模索し、歯科医師との話し合いの中で最善の治療方法を見つけ出していくことが重要です。また、現在の高齢社会における全身的健康を考えた際には、インプラント治療で噛む機能を回復させた時点がスタートであり、それを足掛かりにして健康寿命を延伸することが歯科治療の目的と言えます。

今回患者さんの視点から、インプラントに関する様々な疑問に本音でお答えしたいと思います。

【講演者プロフィール】



<略歴>

萩原芳幸（はぎわらよしゆき）

昭和 60 年 日本大学歯学部卒業

平成元年 日本大学大学院歯学研究科修了（歯学博士）

平成 2 年 日本大学助手 歯学部歯科補綴学第Ⅲ講座

平成 5 年 アメリカ合衆国 オハイオ州立大学歯学部インプラント部門客員研究員（平成 7 年まで）

平成 14 年 日本大学助教授（平成 19 年 3 月まで）、日本大学歯学部付属歯科病院歯科インプラント科 科長（現在に至る）

平成 19 年 日本大学准教授（職名変更により）（現在に至る）

平成 27 年 日本大学歯学部付属歯科病院診療教授（現在に至る）

資格

日本補綴歯科学会 専門医・指導医

日本口腔インプラント学会 専門医・指導医

日本老年歯科学会 評議員

日本体育協会公認スポーツデンティスト